

企業へのアンケート結果について

対象

- ・本校で開催した就職説明会参加企業
- ・最近5年間で複数名の卒業(修了)生を採用した企業



調査企業数: 48社

(うち本校卒業(修了)生採用企業: 29社)

調査方法: 就職説明会会場で配布、または人事宛に
郵送、マークシート方式

I 企業で求める人材の持つ力として重視するもの (3つ以内)

I 以下にあげた①～⑪までの項目は、本校の教育目標として掲げているキーワードです。御社で求める人材の持つ力として、特に重要視されている項目がありましたら、3つ以内でお答えください。該当する項目がない場合には「その他」とし、具体的な内容もご記入ください。

	選択数	
①自然科学に関する基礎知識	8	⑫「その他」についての具体的内容 ・一般常識、挨拶、礼儀、広い視野での適応力 ・インターンシップ面接会に参加する学生数が少ない。予めPRをして欲しい ・パソコンソフト、電子工作に対する興味。無料の3Dソフトを使いこなしている人 ・誇りと使命感を持って仕事に取り組む積極性 赤字:複数回答
②工学の専門分野の知識を活かした応用力	15	
③人文社会系を含む幅広い教養	1	
④英語等の語学力	5	
⑤グローバルな視点からの問題認識力	7	
⑥創造力	11	
⑦主体性および実行力	31	
⑧論理的思考力	16	
⑨コミュニケーション能力	26	
⑩プレゼンテーション能力	2	
⑪技術者としての倫理観	3	
⑫その他	3	

特に重視するのは「主体性および実行力」と「コミュニケーション能力」であり、その他として「一般常識、挨拶、礼儀、広い視野での適応力」を複数の企業があげている。社会人としての基本的素養を求めていると言えよう。

Ⅱ 高等教育機関に育成を期待するもの(自由記述)

Ⅱ 高専・大学等の高等教育機関の場で育成されるべきものとして、御社が期待されているのはどのようなことでしょうか。自由にご記入ください。

・専門分野の基礎技術(情報系、工学系、メカトロニクス、コンピューター、機械、電気)

・**社会人としてのコミュニケーション能力(社内及び社外)**

・返事、挨拶、人として当たり前の事

・粘り強さ、忍耐力(最後までやり遂げる力)、失敗を乗り越える精神力

・知識や技術に偏らない人間力(礼儀、礼節)

・実践的なプログラミング言語学習

・就職希望者の増加を期待

・即戦力となるよう実習や資格取得カリキュラムの増加

・問題解決の手法の取得、課題解決能力

・先輩を追抜く気力のある野心、自己成長意欲

・「高専魂」のようなカラーが欲しい

・学習する事、研究する事の大切さ。それをどう社会や地域に昇華させるか。

・将来の幹部候補

・幅広い視野を持った柔軟な思考力。新たな視点、角度から物事をみれる人。

・自分自身の将来の目標をもち、働きながらそれに向けて努力できる人

・新しい事に挑む探究心

・自ら目標を掲げそれに向けて道筋を立てることが出来る人

社会人としての一般常識に加え、意欲や精神力、主体性などがあげられている。専門分野の知識・技術を身に付けさせると同時に社会人としての基本的素養も身に付けさせてほしいという要望であろう。

朱字:複数回答

Ⅲ 本校の卒業(修了)生に対する評価

回答:29社

Ⅲ 本校の卒業生(修了生)を採用されている企業の方にお伺いします。(該当されない場合は空白で結構です。)							
回答企業数:29							
1 本校の卒業生は、以下の項目について必要な力を身につけているでしょうか。 ①充分身につけている ②ある程度身につけている ③どちらともいえない ④あまり身につけていない ⑤全く身につけていない の5段階で評価してください。							
	①	②	③	④	⑤	回答数	平均値
A 自然科学に関する基礎知識	3	13	6	4	0	26	2.423
B 工学の専門分野の知識を活かした応用力	4	17	3	5	0	29	2.31
C 人文社会系を含む幅広い教養	1	9	14	4	0	28	2.75
D 英語などの語学力	0	6	18	5	0	29	2.966
E グローバルな視点からの問題認識力	0	7	17	5	0	29	2.931
F 創造力	3	12	10	4	0	29	2.517
G 主体性および実行力	4	13	7	5	0	29	2.448
H 論理的思考力	2	16	6	5	0	29	2.483
I コミュニケーション能力	1	17	5	5	1	29	2.586
J プレゼンテーション能力	1	12	12	3	1	29	2.69
K 技術者としての倫理観	5	16	5	3	0	29	2.207

紫のマーカー:比較的評価の高いもの、黄色のマーカー:評価の低いもの

2 高専での教育において、より強化すべきとお考えの項目を、以下の中から3つ以内で選んでお答えください。「その他」を選択された方は、具体的な内容もご記入ください。

	選択数
①自然科学に関する基礎知識	2
②工学の専門分野の知識を活かした応用力	12
③人文社会系を含む幅広い教養	2
④英語等の語学力	7
⑤グローバルな視点からの問題認識力	3
⑥創造力	5
⑦主体性および実行力	15
⑧論理的思考力	5
⑨コミュニケーション能力	19
⑩プレゼンテーション能力	6
⑪技術者としての倫理観	3
⑫その他	0

最も多かったのは「コミュニケーション能力」である。次いで「主体性および実行力」となっており、学生のこれらの力をいかにして育成していくかが今後の大きな課題である。

卒業生・修了生へのアンケート結果について

対象：2012年度～2014年度の本科卒業生および専攻科修了生

調査方法：g-mailで依頼し、googleフォームで回答してもらう方式

質問内容：1、出身学科(コース)、性別、卒業・修了年度、現在の職種

2、本校在籍中に身に付いたと思う力を任意数選択

(項目は、本科および専攻科の達成項目からキーワードを抜き出し、機構のアンケート項目を参考にまとめたもの。)

3、就職・進学後に重要性を強く実感したものを3つ選択

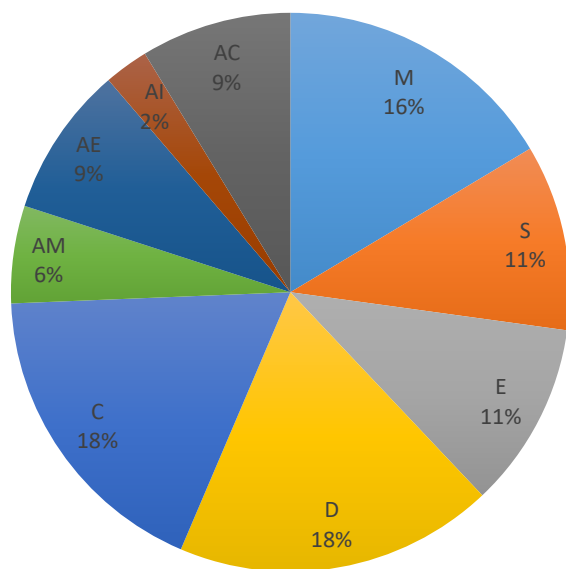
(項目は2と同様)

4、自由記述

(「これから社会に巣立つ後輩たちのために、高専での教育について要望などありましたら、自由にご記入ください。」)

1、回答者(195名)の内訳

【出身学科(コース)】



本科卒業生:145名

M:32

S:21

E:21

D:36

C:35

専攻科修了生:50名

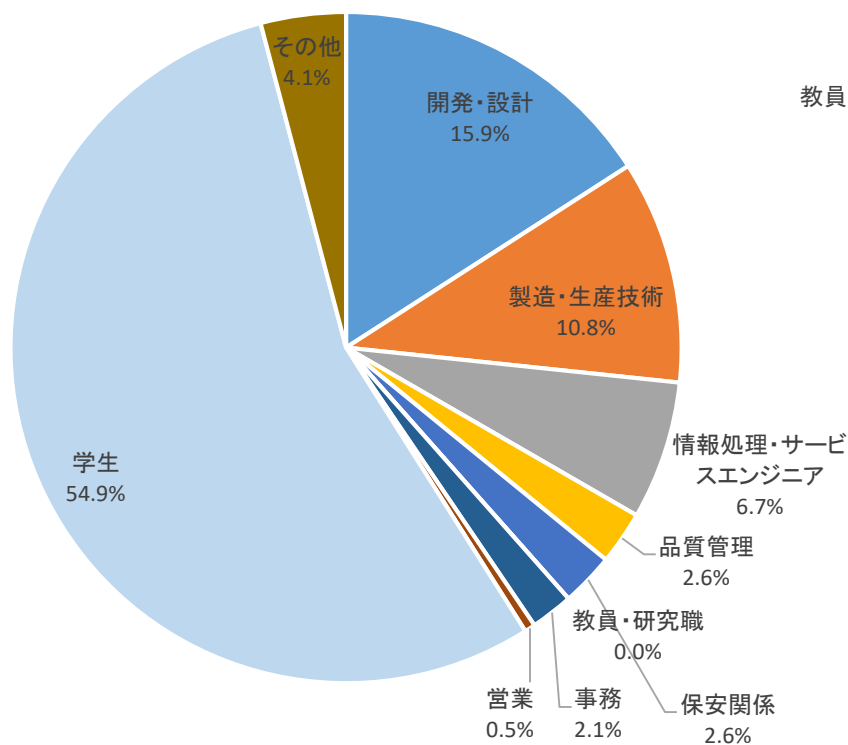
AM:11

AE:17

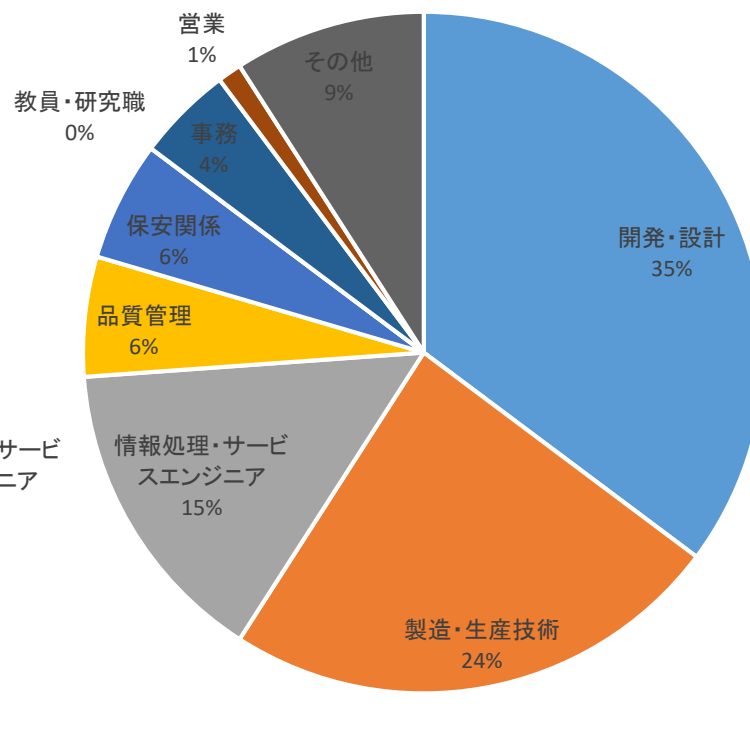
AI:5

AC:17

【現在の職種】



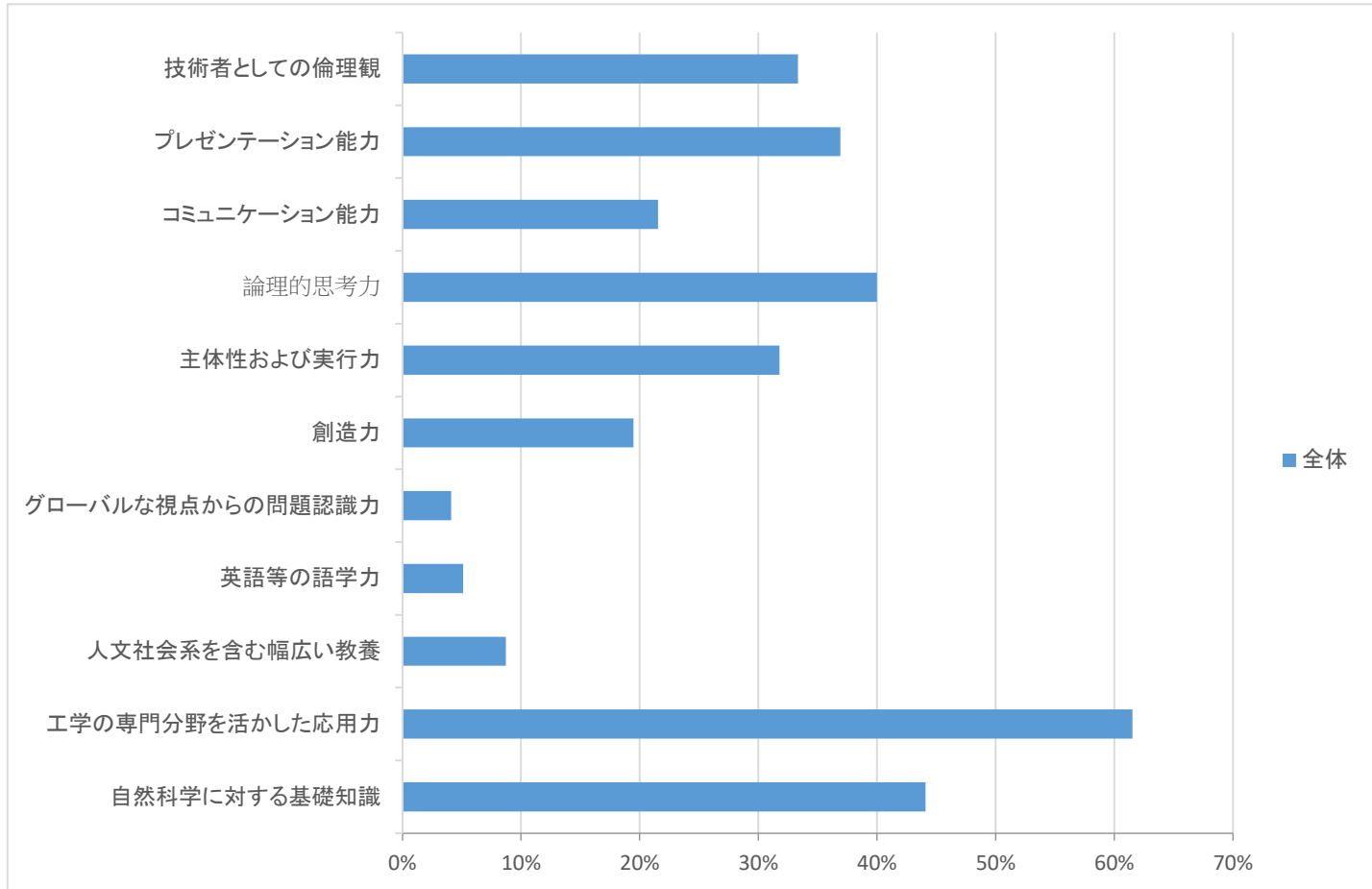
卒業・修了生全体



就業者のみ

2、在籍中に身に付いたと思うもの(任意数選択)

全195名

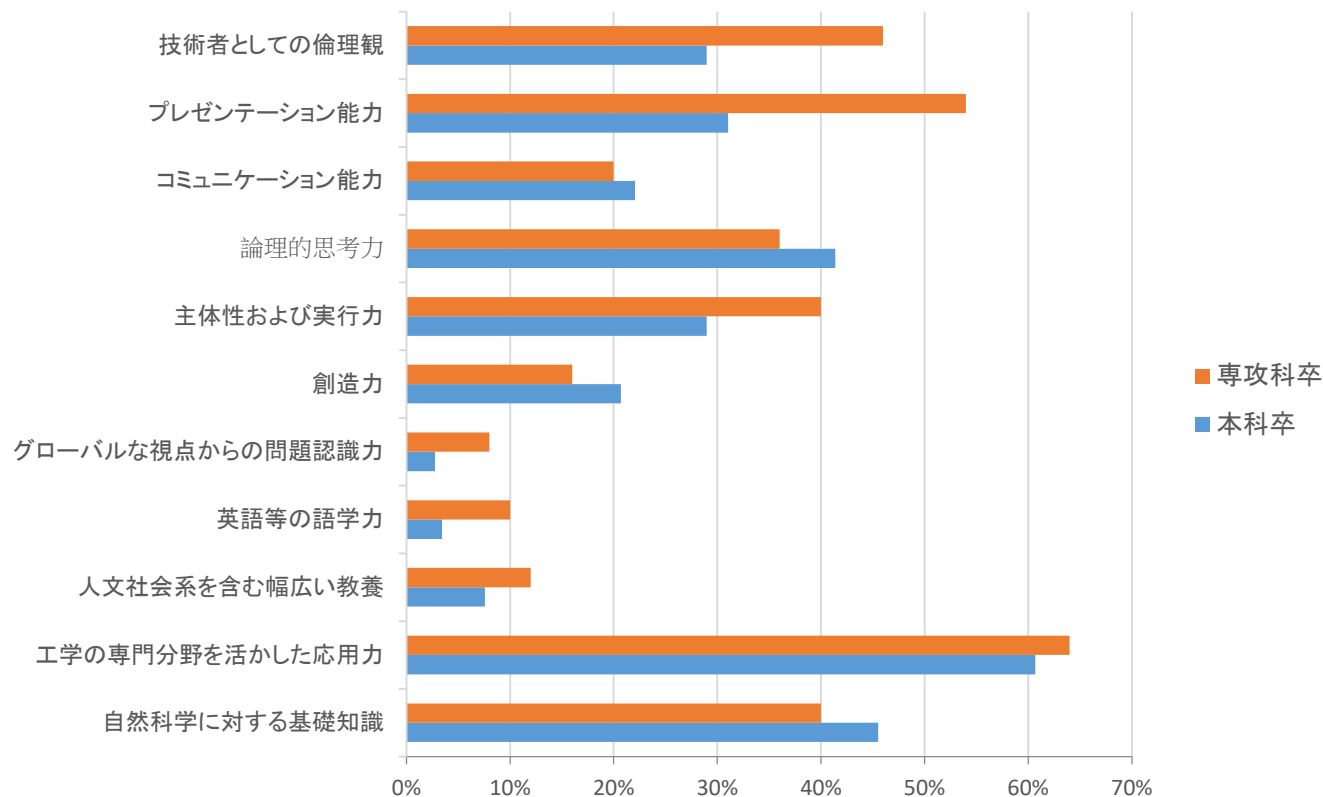


卒業・修了生の自己評価として、「工学の専門分野を活かした応用力」は60%以上の者が「身に付いた」としている。

逆に評価が低いのは、「グローバルな視点からの問題認識力」「英語等の語学力」「人文社会系を含む幅広い教養」である。

【本科卒業生と専攻科修了生との違い】

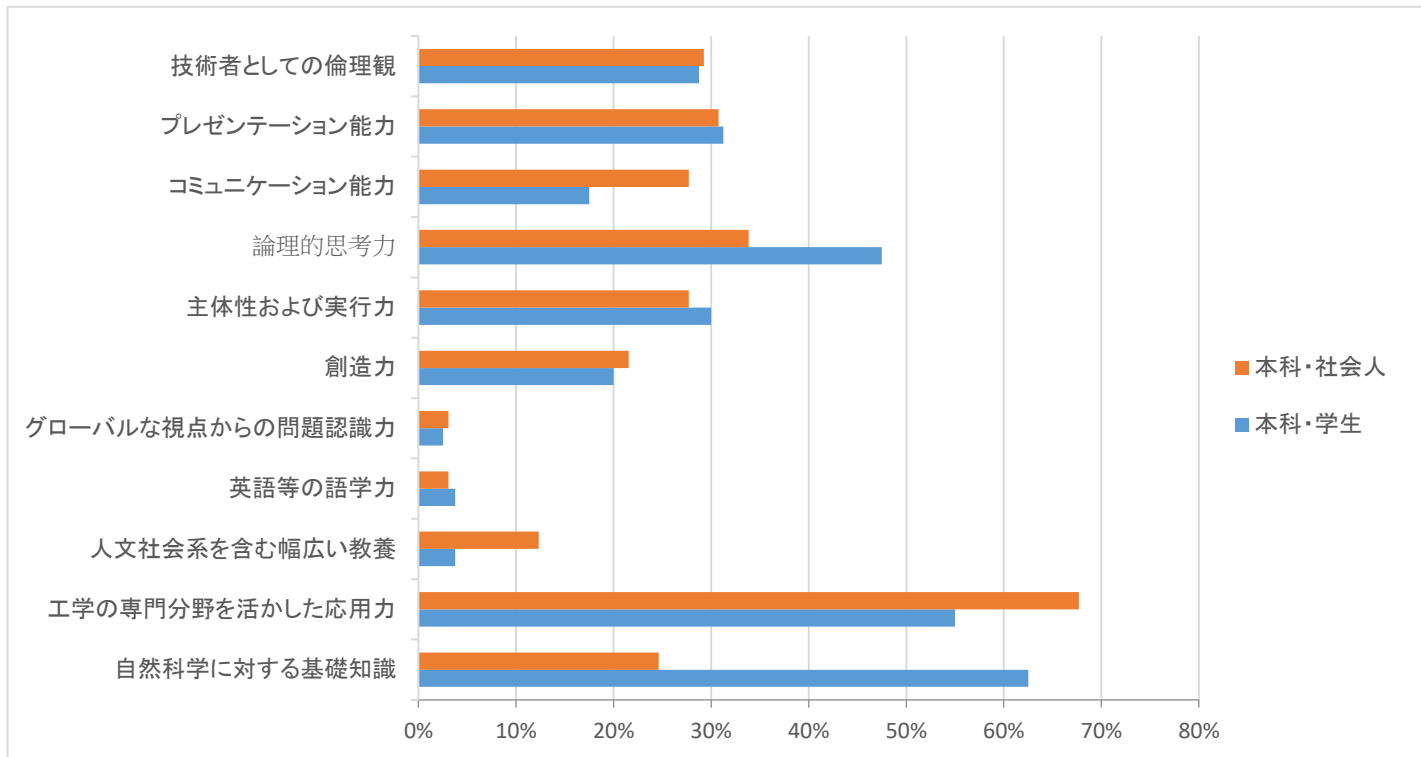
本科145名、専攻科50名



専攻科修了生は、「プレゼンテーション能力」や「技術者としての倫理」に対する自己評価も高い。これは、研究発表の経験や、技術者倫理の講義を専攻科で受講したことによるものと思われる。専攻科修了生において「自然科学に対する基礎知識」の評価がやや低いのは、専攻科がすでに基礎の習得の場ではなく、応用力を活かす場であるという意識によるものではないかと考えられる。

【社会人と学生との違い: 本科卒業生】

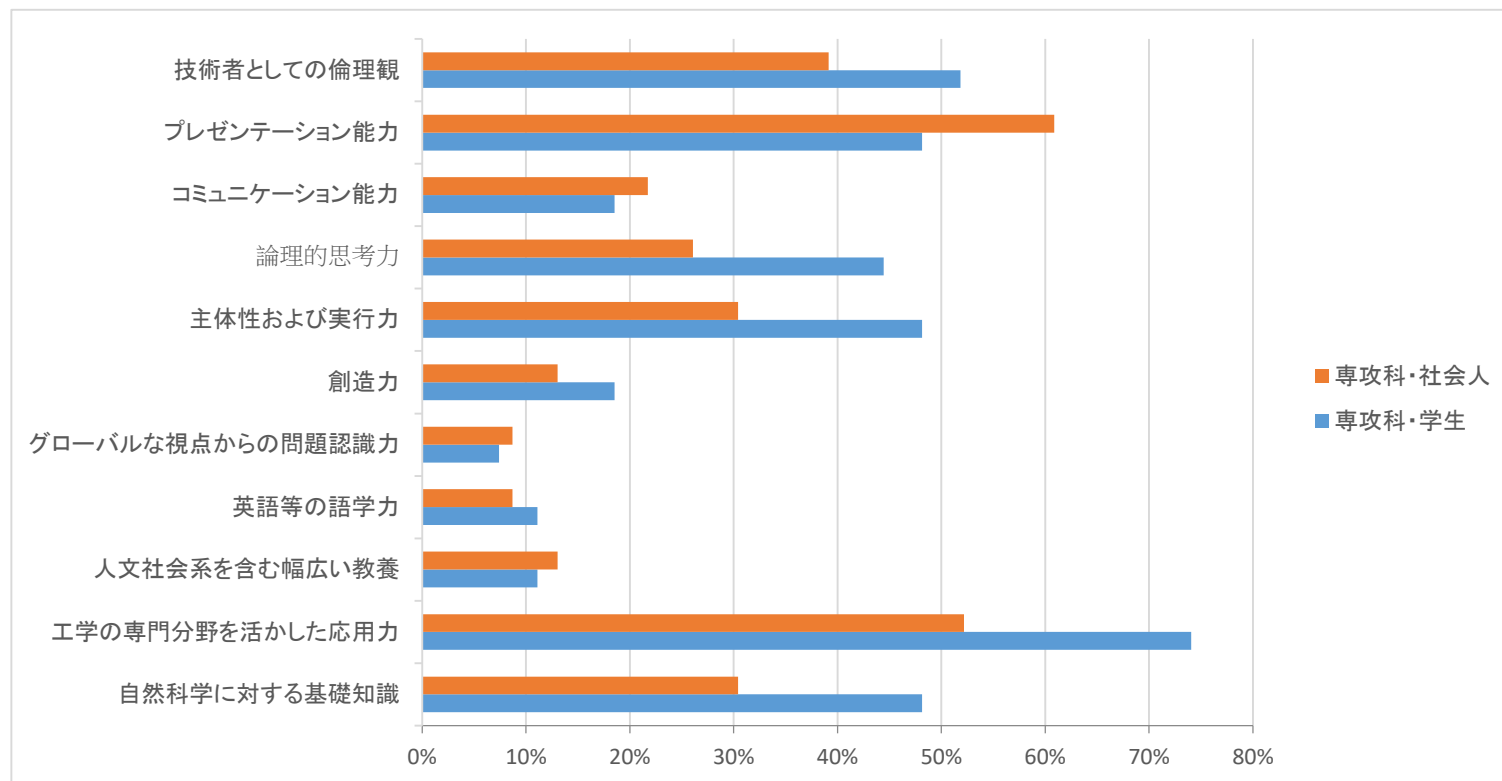
社会人65名、学生80名



現在、進学して学生生活を送っている卒業生においては、特に「自然科学に対する基礎知識」に対する評価が高い。これは、進学を意識して特に基礎の習得に励んだという理由もあるだろうが、現在の大学等での授業や研究において、これらの知識が身に付いているかどうかを実感する機会が多いためではないかと思われる。「論理的思考力」の評価が比較的高いのも、同様の理由と言えよう。

【社会人と学生との違い：専攻科修士】

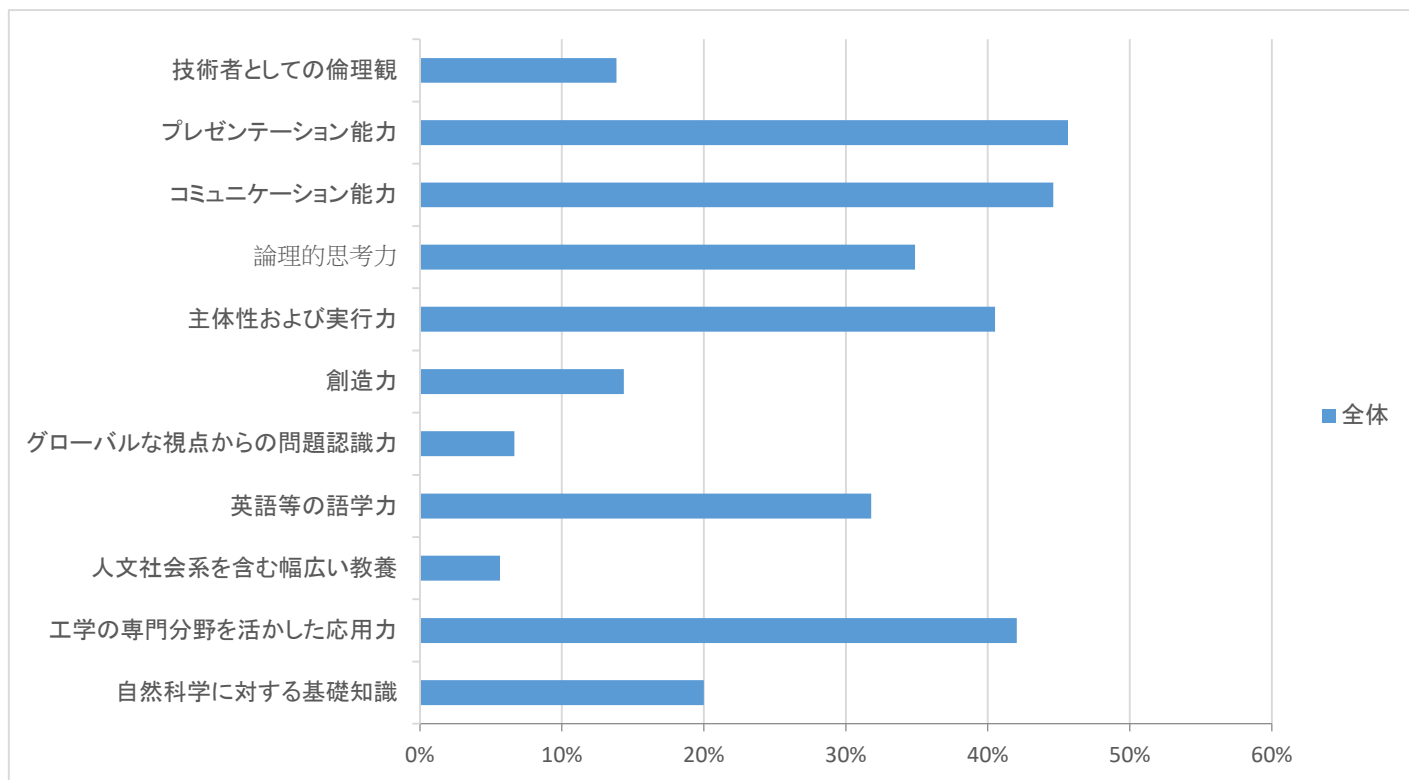
社会人23名、学生27名



社会人と学生とで、本科卒業生ほど大きな差のある項目は見られなかった。全体的に、現在学生である者の方が、やや自己評価が高い傾向にあるようである。

3、就職・進学後に重要性を強く実感したものの(3つ選択)

全195名

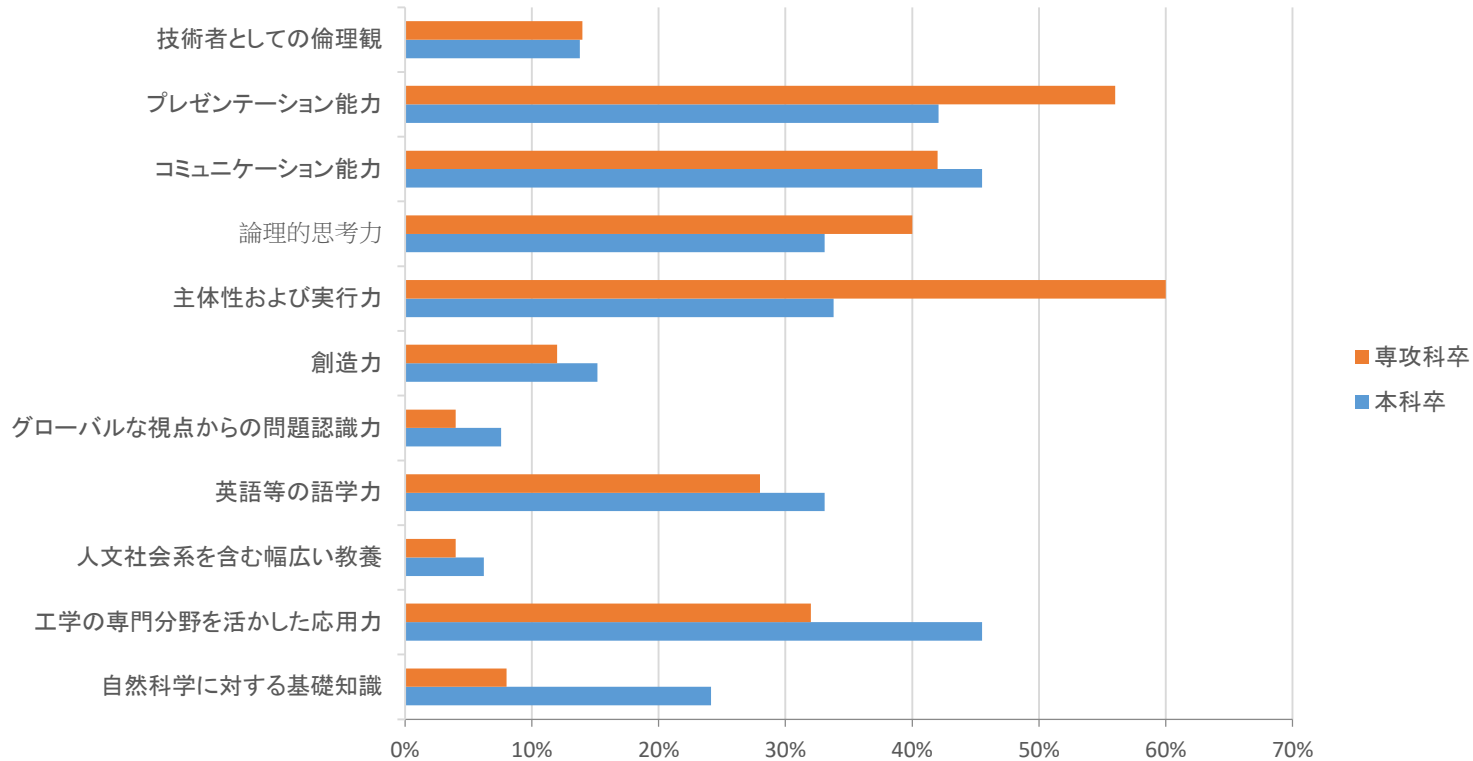


重要性を強く実感したものを、3つ選んでもらった結果である。「プレゼンテーション能力」「コミュニケーション能力」「工学の専門分野を活かした応用力」「主体性および実行力」の4項目の選択者が多かった。

本校のこれからの教育課題として重視すべき項目と捉えるべきであろう。

【本科卒業生と専攻科修了生との違い】

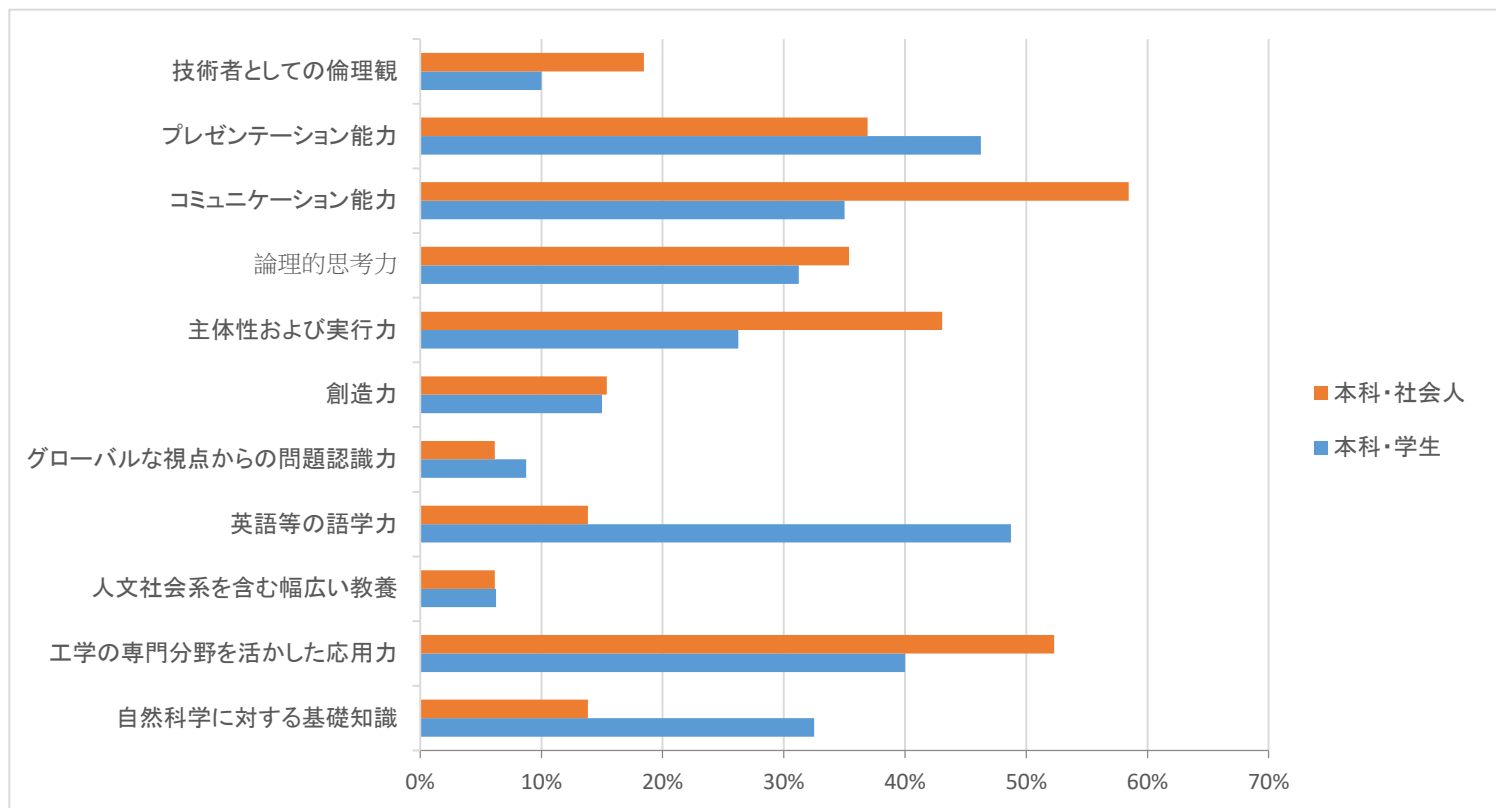
本科145名、専攻科50名



「コミュニケーション能力」や「プレゼンテーション能力」は、本科卒業生、専攻科修了生ともに高い値になっている。特徴的なところは、専攻科修了生において、特に「主体性および実行力」をあげた者が多いところである。

【社会人と学生との違い：本科卒業生】

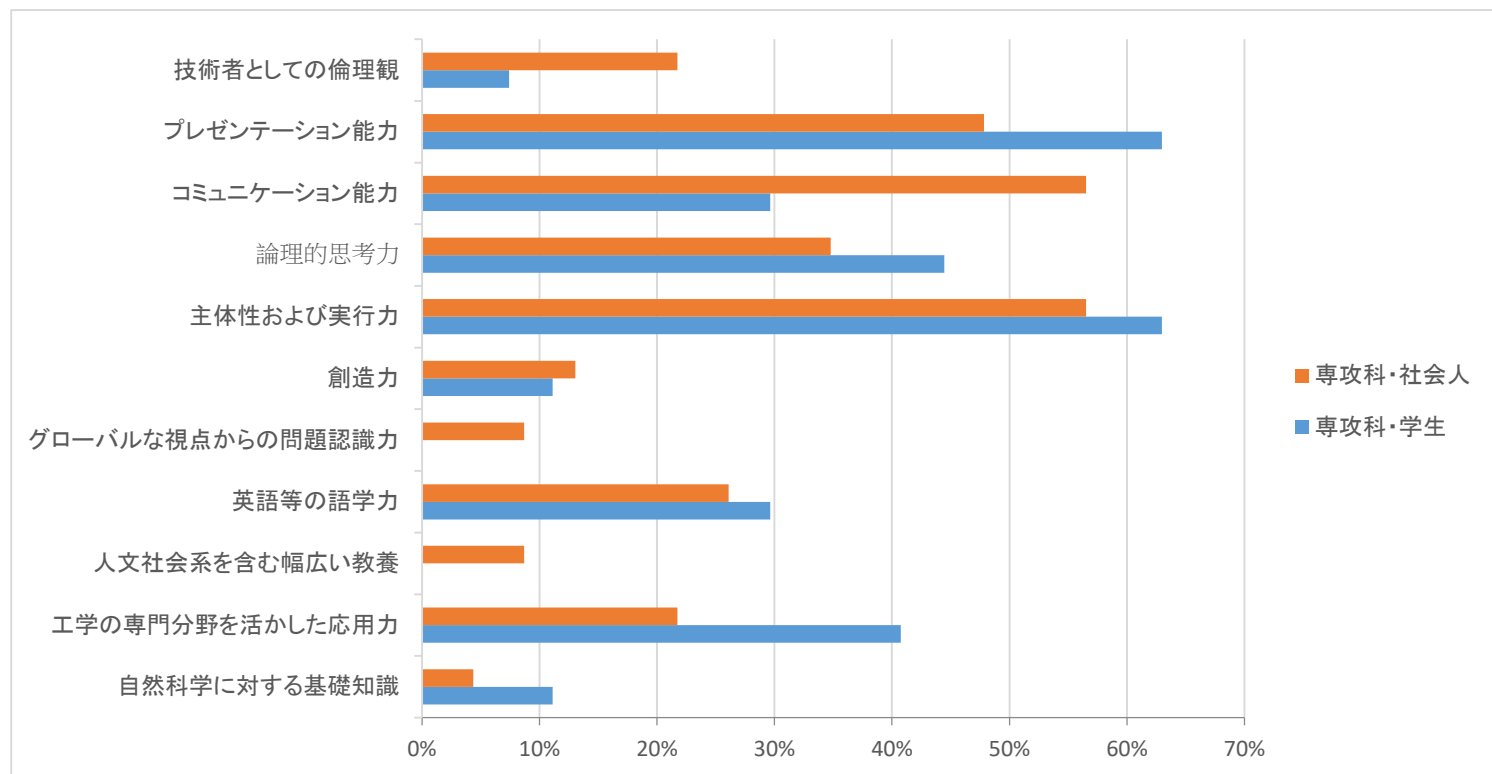
社会人65名、学生80名



特に大きな差が付いたのは、「英語等の語学力」である。現在学生である者たちの中には、この重要性を強く意識している者が多くいるという結果である。一方、社会人がより重要性を感じているのは、「コミュニケーション能力」であった。

【社会人と学生との違い:専攻科修了生】

社会人23名、学生27名



大きく差が開いたのは「コミュニケーション能力」である。本科卒業生と同様、社会人たちは、この重要性を強く感じているということである。

また、専攻科修了生になると、学生であろうが社会人であろうが「主体性および実行力」の値が高くなる。学生であっても、大学院ともなれば自主的に勉学・研究に取り組む姿勢が求められるということの表れと見ることができよう。

◆総括

本科卒業生、専攻科修了生ともに、「工学の専門分野を活かした応用力」はある程度身に付いたと考えている。また、さらに研究を推し進める立場にある現役の大学生もしくは大学院生たちは、「自然科学に対する基礎知識」についても、身に付いたことを実感する機会が多いようである。社会人になっている者は、「プレゼンテーション能力」や「技術者としての倫理観」を多くあげており、これも就職先で求められる能力として強く意識しているからこそその数値かと思われる。

一方、就職・進学後に重要性を強く実感した項目としては、「コミュニケーション能力」「プレゼンテーション能力」「工学の専門分野を活かした応用力」の3項目がほぼ同数値である。社会人と学生の別でみると、社会人は「コミュニケーション能力」を、学生は「プレゼンテーション能力」をあげた者が最も多く、これに加えて社会人は「主体性および実行力」を、学生は「英語等の語学力」を重視している。

専門分野の基礎および応用力を培うことはもとより、「コミュニケーション能力」「プレゼンテーション能力」「主体性および実行力」「英語等の語学力」を身につけさせることは、今後の本校の重要な教育課題と考える。これらの多くは、特定の科目によって身につけられるような力ではなく、あらゆる授業、学校生活の中において、総合的に培っていくものである。各教員がそれぞれに、あらゆる機会を通じてこれらの力を学生たちに身につけさせるべく、尽力していくことが求められていると言えよう。